

二〇二四年 門信徒代表挨拶

新年明けましておめでとうございます。

僭越ではございますが、門信徒を代表してご挨拶を申し上げます。

挨拶の前に元日に石川能登地方で地震が発生しました。まずは被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げますと共に、皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

二〇二三年は新型コロナウイルスが五類に移行され、二〇二〇年からの戦いに終焉を迎えた年となりました。世の中は人や経済が動きだし、特にスポーツ界では野球・ラグビー・バスケットボールで世界を相手に戦う日本代表が人々に勇気を与え、大谷翔平という唯一無二の存在に湧き立ったことは記憶に新しいと思います。少林寺拳法においても世界大会が開催され、世界中の人々がコロナ禍前より明るく元気になった年ではなかったでしょうか。一方、【ロシア・ウクライナ問題】はまだ終息が見えず、加えて【イスラエル問題】により弱い人達が犠牲になっている世界があることも忘れてはいけません。そしてこれらは全て人が作り出しているのです。

「人、人、人、全ては人の質にある」新しい年を迎えた今、我々拳士は開祖が残したこの言葉の意味を考えなければなりません。我々に世界中を感動させる力や世界の紛争を止める力はありません。でも自分の周りの人達に感謝されることや間違ったことを止めることはできるのではないのでしょうか。それが「理想境建設に邁進」することだと思えます。少しでも自分の周りに影響を与えることを心がけて、水海道道院で修練を行うことに喜びを感じられるよう、門下生一同努力してまいります。

最後になりますが、今年も皆様方のご多幸とご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

二〇二四年一月六日